

TOYOTA MARINE

Ocean Style

Mar 2026 Vol.20

Proposed
the Play of Ocean



トヨタホームの叡智を結集させた、都市型邸宅。

土地の選定からこだわり、その土地の性質を見極め、
既成概念にとらわれることなく、個性を追求する。
「ただ一度しか出会えないような邸宅をつくる」
この思想を基に、一邸一邸、独創的なプランニングを創造。

高水準の鉄骨構造体、85%を自社工場を組み立てるトヨタ生産方式の高品質な建物、
そして、まちづくりまでを妥協することなくこだわり尽くした、至高の邸宅をここに。

トヨタホームの最高峰・都市型新築分譲邸宅
「TOYOTA HOME EST」。



TOYOTAHOME EST

TOYOTA HOME

TOYOTA HOME EST

トヨタホームエスト

検索

※写真は施工例です

トヨタホームエストに関するお問い合わせは
右記へご連絡ください。

トヨタホーム東京株式会社 分譲住宅 第一営業部
所在地：〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-18 フリーコール：0120-872-161

TOYOTA HOME EST





TOYOTA MARINE
Ocean Style

Proposed the Play of Ocean

Proposed the Play of Ocean

TOYOTA MARINE Ocean Style

— Mar 2026 Vol.20 —

08



MAXが出会った、海上での特別な時間
— LEXUS LY650



14

LEXUS LY650 回航日誌

～蒲郡から奄美大島へ続くロングクルージング～



18

奄美の海と島文化を知る時間

～島の風土に触れるリゾートステイ～



22

Japan Mobility Show 2025

10.30 Thu-11.9 Sun at Tokyo Big Sight



26

人と環境の未来へ進化する
NEW PONAM-31// 誕生



31

世界とつながり、次のモビリティを示す感謝の舞台

「WORLD ARIGATO FEST. 2025」開催



32

トヨタアスリート 高原奈穂選手



36

MARINA DIVIDE VOL.19

NEWPORT EDOGAWA

| マリーナ探訪 | ニューポート江戸川



38

LINE UP ラインナップインフォメーション

SeaSucker

載せたいアイテムを思いのままに。




SeaSucker 製品は強力な真空マウントが使用され、特別な加工なしで、様々なアイテムが取り付け可能です。脱着はほんの数秒。是非 SeaSucker のある世界をご体感ください。



株式会社リガーマリンエンジニアリング

三重県いなべ市大安町南金井1732番地
TEL:0594-87-0200 FAX:0594-87-0300

シーサッカージャパン 

SeaSucker.jp
公式



Instagram



電子
カタログ



LEXUS LY650

MAX INTERVIEW

MAXが出会った、海上での特別な時間 — LEXUS LY650

沖縄の海で実施されたLEXUS LY650の特別クルージング企画。今回、特別クルージングに相応しく、沖縄県出身でデビュー30周年を迎えたアーティストグループ「MAX」を特別にお招きし、海と向き合う時間の中でクルージングや水上バイク、シュノーケリングなど多彩なマリトレジャーを体験し、その魅力を語ってくれた。



アーティストグループ「MAX」が沖縄の海でマリトレジャーを体験。自然に包まれた非日常の時間に、メンバーの飾らない笑顔が輝いた。



メンバー全員がまず心を奪われたのは空と海がひとつに溶け合うような青のグラデーションだった。



LEXUS LY650で沖縄の海をゆるやかにクルージング。非日常の時間を満喫した。



NANA



LINA



MINA



REINA

MAXの4人に、マリトレジャーを体験して感じたことをインタビュー。4人の口から出たのは実際に体験したからこそわかる“海の魅力”だった。



沖縄の海で、水上バイクやカヤック、シュノーケリングを体験。海とふれあう時間を心から楽しんだ。

クルージングで見つけた“素の自分”

— こういったクルーザーに乗る体験は初めてでしたか？

LINA 「クルージング自体は海外で一度だけ経験がありましたが、日本でこんなに豪華な体験ができるとは思っていませんでした。大人になってから味わうこの楽しさはまた格別でした。」

REINA 「私は完全に初めてで、まるでVIPになったような気分でした。同じ海なのに、昼と夜で表情が全く違って驚きました。夜になると雰囲気が一変し、海に浮かんで星を見ながら、ああ、こんな時間もあるんだって。からだ全体で幸せを感じる体験でした。」

NANA 「私も初めてで、想像していた以上に楽しかった。これはみんなに教えてあげたい！船上でのディナーもすごくリラックスできて、女子会もできそうだし、船って遊び方の幅が広いなと思いました。一度きりじゃもったいない体験です。これは実際に体験してみないと分からないですね。」

MINA 「私は子どもの頃、小さな船で釣りに行ったことはありました。でもこういう“ワンランク上の海の時間”は初めて。海と空だけが演出で、何もいらなかった。まさにデジタルデトックスというか、贅沢な時間でした。」

— “船の上は素の自分に戻れる場所”と表現されることありますが、実際にどう感じましたか？

NANA 「まさにそうでしたね。立場も年齢も関係なく、みんなが一緒になって楽しめる。波の音だけが響く中で星を見て、10代の頃に戻ったような気持ちになりました。」

MINA 「星を見ようって言って、みんなで電気を消して寝そべったんです。静けさが最高の演出で。蠍座が見えて、“ああ、デビュー前の自分たちってこんな空を見上げてたな”って思い出しました。」

LINA 「あの頃は夢を掴めるのかな、歌手になれるのかなって夜空を見ながら考えてた。今回の時間はそんな自分に少し戻れたようで、すごくロマンチックでした。」

REINA 「都会では“星を見よう”なんて思わないですよね。でも海に出て、空を見上げたら、星があった。その気持ちにさせてくれる空間が特別なんだなと実感しました。」

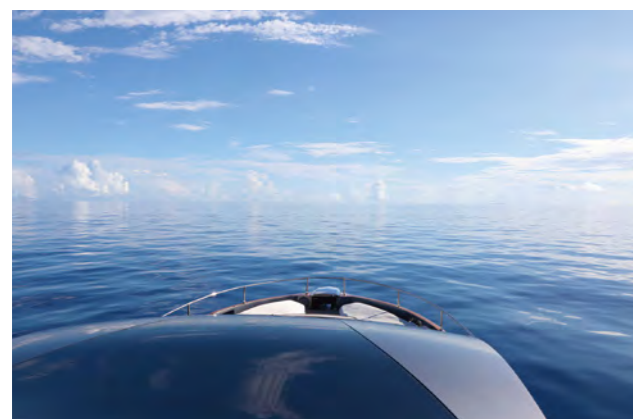
※実はこの“素の自分に戻れる”という感覚こそ豊田会長が長く語り続けてきた“船の魅力”。MAXの4人が海上で味わった解放感や静けさが、その言葉と偶然重なる結果となった。



豊田会長の操船で沖縄の海をクルージング。フライブリッジでは潮風を受けながら、爽快なひとときを過ごした。



メンバーとマリライフの魅力について語り合う豊田会長。



フライブリッジからは何にも遮られない水平線を眺められる。ゆるやかに移ろう景色を、ただ静かに見つめる時間。



後ろを振り返ると、大きな航跡がゆるやかに広がっていく。穏やかな海に描かれる白い軌跡が、静かな余韻を残す。

LEXUS LY650が描く、 海と一体になる時間

— LEXUS LY650に乗ってみて、特に印象に残ったポイントは？

REINA 「私は後ろのデッキから航跡を眺めている時間が好きでした。白波が立って、ただそれを見ているだけで心が落ち着く。あの穏やかさは特別でした。」

LINA 「船の先端にあるソファエリアが印象的でした。風も光も全身で感じられて、走っている時は一番ダイナミック。思わず“タイタニックポーズ”もしちゃいました(笑)。」

MINA 「私はフォーム。水上バイクで船の周りを回ってみたら、改めて“カッコいい!”って思いました。スタイリッシュなラインは何度見ても惚れ惚れします。」

NANA 「運転席の隣で風を受けながら進む時間も最高でした。どこまでも行けそうな気分になって、みんなで冗談を言い合いながら過ごしていました(笑)。海に出ると世界が広がる。まさにそんな感覚でした。」

— クルージング中、特に非日常を感じた瞬間は？

MINA 「夕陽が沈む瞬間。空がピンクやオレンジに変わっていく。あの空の色はどんな照明でも再現できない自然の演出ですよ。」

NANA 「まるで“大自然のショータイム”。ずっと写真を撮っていても飽きない時間でした。」

LINA 「1分ごとに空の表情が変わっていくのが印象的で、思わず何十枚も写真を撮りました。」

REINA 「周囲に何も遮るものがないから、変わりゆく景色をゆっくり味わえる。船の上でしか見られない幻想的な時間でした。」

— もしLEXUS LY650を自由に使えるとしたら、どんな時間を過ごしてみたいですか？

NANA 「ミュージックビデオを撮ってみたいですね。海外のMVによくある、船の上でセレブがワイン片手に楽しんでいるようなシーンってあるじゃないですか(笑)。ああいう雰囲気自分たちでも再現してみたいなと思いました。」

LINA 「分かる!あの空と夕日を背景に撮影してみたいよね。あとは船に泊まったことがないので、1泊してみたい。海の上で目覚めるってどんな感じなんだろうって、すごく想像が膨らみました。」

— クルージングだけでなく、シュノーケリングやカヤックなども体験されました。

NANA 「シュノーケリングも最高でした。最初は水が入って焦ったけど、だんだん慣れて遠くまで行けるようになって。魚たちがすぐ隣を泳いでくれるから、マーメイドになった気分です。本当に別世界でした。」

LINA 「私はカヤック。小さな子どもとお母さんと一緒に楽しめるし、カップルなら背中越しに“ごめんね”“ありがとう”なんて普段言えないことも伝えられそうな距離感がいいなと思いました。」

MINA 「海の中でカクレマノミを見つけた瞬間、すごく感動しました。テレビで見るのとは全然違うリアルな感動。」

REINA 「シュノーケリング中に魚へ餌をあげる体験も忘れられません。ちょっと指を噛まれたけど(笑)。無人島のビーチで食べたランチも贅沢で、“自分たちだけの空間”という感じが最高でした。」



LEXUS LY650でクルージングを楽しむMAXの4人。それぞれが印象に残ったお気に入りのポイントを語ってくれた。

広がる海、広がる未来。 次に見たい景色へ

— 次はどんな場所に行ってみたいですか？

MINA「お台場や工業地帯など、都会の綺麗な夜景を海からも見てみたいですね。」

NANA「石垣から台湾へ行けると聞いて、海外にもクルージングで行ってみたい！船でパスポートを持ってそのまま行けるってワクワクします。船の旅も夢がありますね。」

— クルージング中にお勧めの楽曲は？

REINA「走っている時は“GET MY LOVE!”とか“Seventies”みたいにノリのいい曲がぴったり。」

NANA「“Ride on time”をかけたら気持ちよさそう。夏の海に合う爽やかさがいいですね。」

LINA「星を見る時は“一緒に…”を流したい。静けさに溶け込むような時間になると思います。」

— 皆さんが今回の体験で「一番楽しかったこと」は何でしょうか？

MINA「水上バイク！今度は自分で運転したいから免許を取ります。本気です(笑)。」

REINA「私も水上バイク。自分で操縦して、もっと海の上を走ってみたい。仲間と過ごした時間そのものが宝物になりました。」

NANA「夕陽と空のショータイム。自然が見せてくれるエンターテインメントは何にも代えられない。あの瞬間の幸福感は一生忘れません。」

LINA「水上バイクはモリソウさんの後ろに乗せていただいたんですが、本当に少年のように楽しそう。ああ、モリソウさんは本気で“ハンドルを握ること”が好きなんだと伝わってきました。その時間が一番印象に残っています。」



水面に浮かぶLEXUS LY650を拠点に、水上バイクでのツーリングを満喫した。

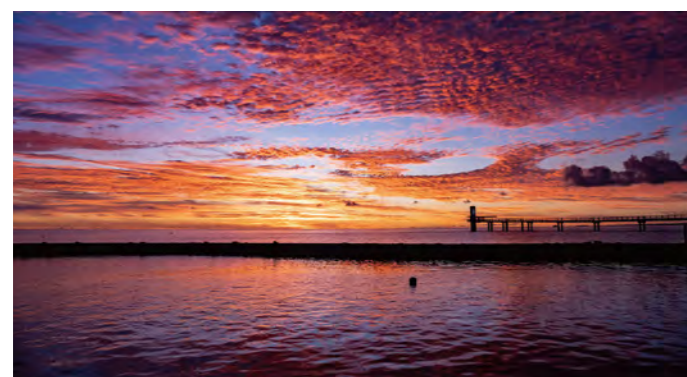
海がくれた“非日常の時間”

海の上で過ごした一日は単なるレジャーではなく、彼女たちにとって未知なる遊びとの出会だった。波の音に包まれ、風を感じ、空を見上げる時間の中で、彼女たちは自分たちの原点と再び向き合った。LEXUS LY650がもたらすのは単なる移動の手段ではない。それは感性を解き放ち、人生を豊かにする「時間そのもの」である。MAXの4人が体験した“特別な海の時間”——それはマリライフが持つ本当の贅沢を教えてくれるひとときだった。

本号表紙を豊田章男会長が撮影



クルージングの合間には今回のオーシャンスタイル表紙用カットを、豊田会長自らが撮影。



メンバーが絶賛していたのは沖縄のサンセット。刻々と色を変える空は自然が描く最高の演出だった。



海上では気の合う仲間と食事を楽しむひとときも。こうしたプライベートな時間が、非日常の特別な瞬間になる。



静けさの中で輝く光がデビュー時の記憶を思い出させてくれた。日々の喧騒を忘れ、素の自分に戻ることができた瞬間だった。

～蒲郡から奄美大島へ続くロングクルージング～



蒲郡から奄美大島へ。港を巡るたびに海の色が変わり、時が穏やかに流れていく。ロングクルージングはただ移動するのではなく“海の時間”を楽しむ航海だ。

今回は贅沢な夏の休暇として、奄美大島までのロングクルージングを企画。出航地となったのはLEXUS LY650が普段停泊している愛知県蒲郡市のラグナマリーナ。天候や海況の変化に対する備えはもちろん、寄港地での停泊方法まで、様々な状況を楽しみながら南下していく。最終目的地となる奄美大島を目指す4日間の船旅。そんなロングクルージングの模様を、今回は回航日誌として振り返る。



海と共に時間を重ねる
ロングクルージングという贅沢

大型艇でのロングクルージングには移動そのものを愉しむという贅沢がある。行き先を急ぐのではなく、海と共にある時間を味わう旅。広いデッキから眺める水平線、静かに響く波の音、そして港に着くたびに会う土地の香りと味覚。それらのすべてが、船旅という体験を重層的に彩っていく。LEXUS LY650はその快適性によって旅の時間そのものを豊かに変える。上質な空間が演出されたサロンは洗練された静けさに包まれたリビングのようであり、キャビンには深くつろぎが広がる。揺れを抑える安定性と静粛性は航行時に大きな安心感をもたらす。船上では空間そのものが移動する別荘のように機能し、時間の流れが緩やかに変わっていく。寄港地ごとに変わる風の匂い、海面の色、空気の湿度、それらを肌で感じながら進む旅路には陸の旅では得難い感覚的な豊かさがある。ロングクルージングとはまさに「移動が目的となる旅」であり、海と生きる喜びを最も贅沢な形で体現する時間だ。



LEXUS LY650で挑む長距離航海。洗練されたデザインと確かな走行性能を兼ね備え、快適で優雅な航海をサポートしてくれる。

確かな準備の先にある自由で上質な航海

蒲郡を発ったLEXUS LY650はゆるやかなスロットルワークに呼応して西へと進路を取った。最初の寄港地は兵庫県・芦屋マリーナ。伊勢湾を抜ける航路では潮の流れや風の変化を感じ取りながら、慎重に舵を取る。海はいつも同じ表情を見せるわけではなく、その日ごとに風も波も違う。それがこの旅の魅力でもあり、一期一会の景色を楽しむ余白となる。芦屋マリーナから広島・観音マリーナへ向かう航路では明石海峡大橋や瀬戸大橋など、国内を代表する橋の造形美が旅の景色を彩る。宮崎・油津港までの航路では瀬戸内らしい多島美の海を抜けると、穏やかな青が次第に太平洋の深い青へと変わり、海の多彩な表情を実感させてくれる。そして奄美・名瀬港へ。黒潮に乗って南下する航路は深く澄んだ青に包まれ、太平洋の雄大さを実感させる。長い航路の果てに見える島影は旅の終着でありながら、次の海を思わせる静かな誘いでもある。



出港前には毎回エンジンルームを開け、冷却水やオイル量、ベルト類、配管まわりの異常がないかを確認し、各部の点検を済ませてから航行に入る。係留後はエンジン停止後の余熱が落ち着くのを待ち、異臭、オイル漏れの確認など、到着時の各部点検も併せて行っていた。

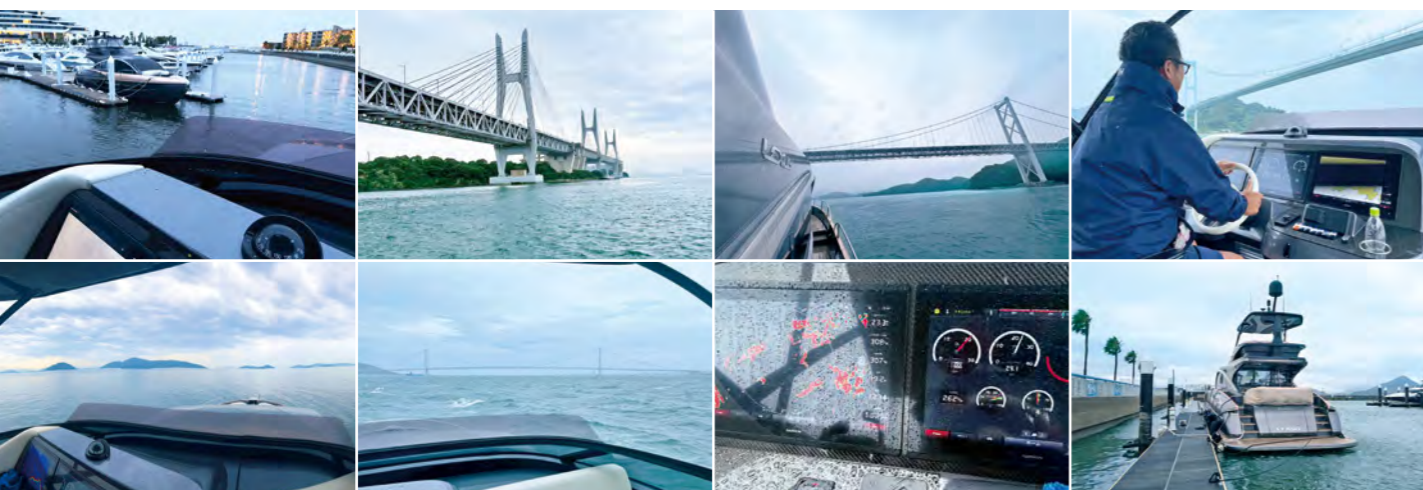


DAY 1

ラグナマリーナを後にして伊勢湾へ出ると、海面は驚くほど静かだった。回航初日の朝にこれほど穏やかな水面が広がると、その日の航程全体が自然と見通しやすくなる。西へ舵を切りながら思い浮かぶのは目的地となる芦屋マリーナ。全バースがシングル仕様で、電動カートによる送迎も含め、艇を迎え入れるための体制が隅々まで整えられたハイエンドマリーナである。ただし、到着の可否や時刻を左右するのは結局のところ天候と海況だ。風向きや波の周期が少し変わるだけで、航行ペースは容易に変動する。そのため、事前の情報確認と航行計画の確認は欠かせない。日の出とともに出航し、燃料補給や点検にかかる時間を織り込みながら、夕方前には入港できる航海計画を立てる。寄港に際しては棧橋利用だけでなく給油に関しても、必ず事前に目的地となるマリーナへ連絡を入れておくことが重要だ。係留位置の確保や受け入れ体制の調整がスムーズに進み、到着後の動きに無駄がなくなる。穏やかな海を走りながら、計画と段取りが航行の質に直結することを改めて実感する一日となった。

取材協力

芦屋マリーナ 〒659-0035 兵庫県芦屋市海洋町11-1 TEL:0797-35-6662



DAY 2

回航2日目となるこの日は芦屋マリーナから広島観音マリーナを目指す区間となる。このルートでは明石海峡大橋をはじめ、しまなみ海道に連なる橋が次々と姿を見せ、この海域ならではの景観が航路に映える。橋梁をくぐる際は潮の流れが変わることもあるため、操船時の注意点としても頭に置いておきたい。この日は途中で雨に見舞われ、海面もやや荒れ気味だった。荒天時には海上だけでなく、マリーナ周辺にも流木や漂流物が集まりやすくなるため、レーダーと目視の双方で海面状況を細かく確認しながら進んだ。目的地の広島観音マリーナは中国地区でも有数の規模を誇る保管能力を持っており、充実した設備も整うため、安心して寄港することができた。天候に揺らぎのある一日だったが、瀬戸内特有の景観の中で、移ろう海と橋の表情に向き合いながら進む、航路としての魅力を強く感じる区間となった。

取材協力

広島観音マリーナ 〒733-0036 広島県広島市西区観音新町4丁目14番6号 TEL:082-234-7710



DAY 3

3日目の航路では広島観音マリーナを出発し、針路を南へ向ける。次の目的地は宮崎県の油津港だ。瀬戸内海を抜け外洋に向かう途中、海面には霧が立ちこめ、視程が0.5マイルほどに落ちる場面があった。こうした状況ではレーダーをこまめに確認し、速度を抑えて慎重に進むことが欠かせない。速度は落ちるが安全を最優先に、慎重に周囲を確かめながら航路を守っていく。やがて霧の向こうに光が差し込み、視界が開けるとともに海は再び穏やかな表情を取り戻した。外洋が近づくとつれて海の色は深く澄んだ青へと変わり、ロングクルージングならではの“海の移ろい”が実感できる区間となる。瀬戸内海に比べればピッチはやや大きくなるが、一定のリズムを保ちながら南下を続ける。航程にはゆとりを確保していたこともあり、油津港へは順調に入港できた。マリーナとは異なる場所に入港する際は事前に係留場所を管理する漁港などに連絡し、係留場所を確認しておくとともに、給油についても事前に現地業者と段取りを調整する必要がある。瀬戸内から太平洋へと変わる海の表情に舵を合わせながら、その移ろいを全身で受け止める一日だった。

取材協力

油津港内



DAY 4

回航最終日となる4日目は油津港を出発し、最終目的地の奄美大島・名瀬港へ向けて南下する。この区間は一気に外洋へ出ることになり、今回のクルージングで最も長く外洋を走る航路となる。黒潮の影響でうねりが大きくなる可能性があるため、気象予報をしっかりと事前確認。航行中は外洋ならではの濃い青が四方に広がり、陸地から離れる区間も長いため、周囲に目印となるものはほとんどない。視界が開けている分、波の周期やうねりの方向はつかみやすく、外洋航行としての判断が度なく求められる区間となる。航海の途中では野生のイルカの群れに出会う場面もあった。こうしたシーンに出会えるのも外洋クルージングの魅力の一つ。外洋の長い区間を越え、奄美大島の島影が近づくと名瀬港へ向けて舵を切る。名瀬港はマリーナと異なり、岸壁へ直接係留するため、乗り降りの高さの違いには注意が必要だ。船体が岸壁に触れないよう、十分な“すき間”を保つため、通常よりも大きめのフェンダーを入れて擦れや傷を防いだ。所定の場所に係留を済ませ、4日間の回航は予定どおりの航程を終えた。

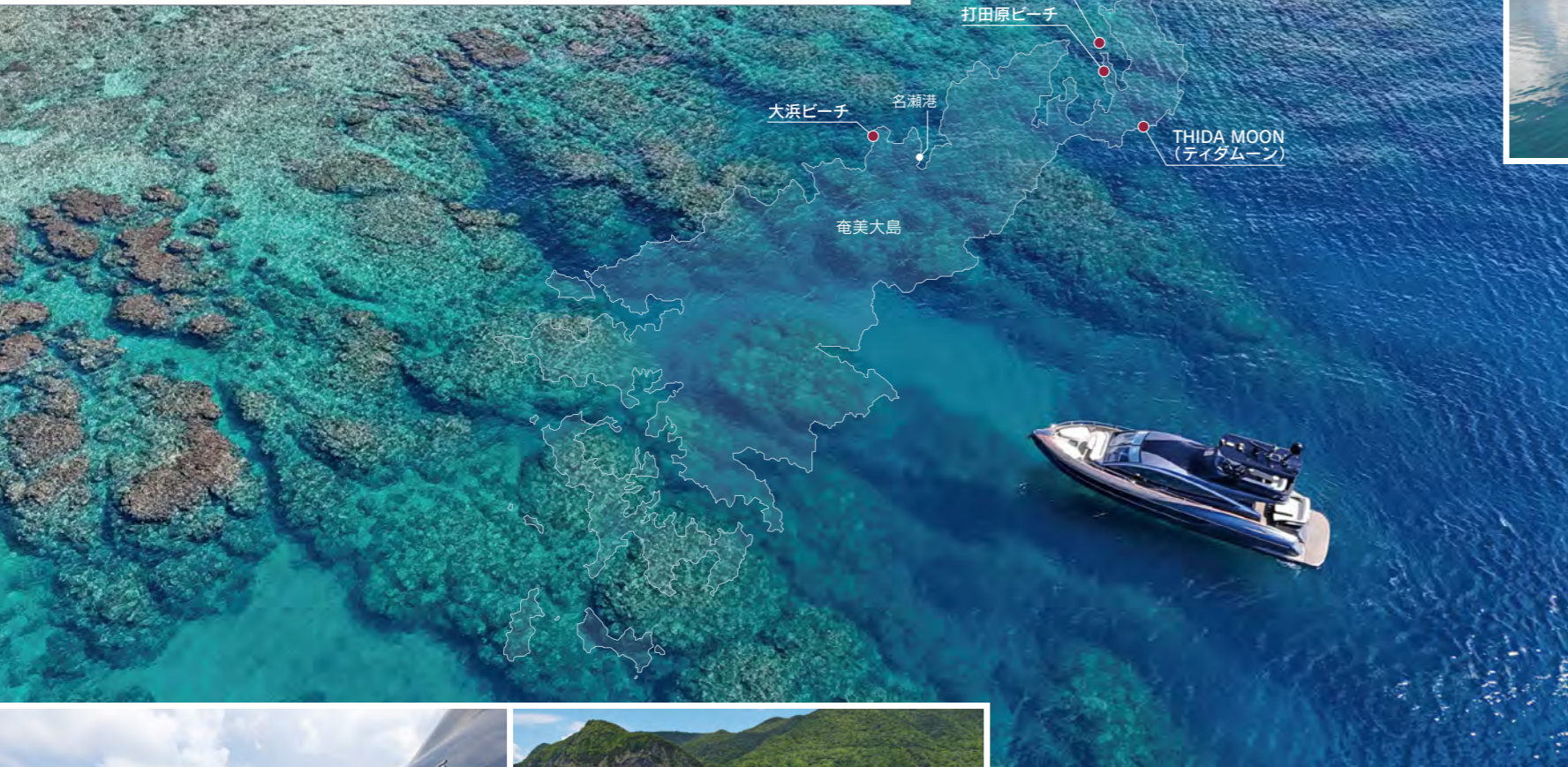
取材協力

名瀬港 〒894-0035 鹿児島県奄美市名瀬塩浜町2281 TEL:0997-52-0739(名瀬港分室)

※奄美大島は公共交通機関が限られるため、移動手段の確保も旅のポイントとなる。今回は事前にレンタカーを手配し、島内での移動に備えた。

奄美の海と島文化を知る時間

～島の風土に触れるリゾートステイ～



笠利湾に静かにそびえる立神。その姿は奄美の海に流れる時の深さを映している。



立神の周辺には打田原ビーチをはじめ、奄美の美しさをそのまま映す静かなビーチが点在する。

奄美に息づく理想郷 “ネリヤカナヤ”を現代に感じる宿

奄美大島の北部、海と空の境がゆるやかに溶け合う地に佇む宿「THIDA MOON(ティダムーン)」。その名は島の言葉で“太陽と月”を意味し、自然の循環とともに生きる奄美の思想を象徴している。この場所では古来より語り継がれてきた理想郷「ネリヤカナヤ(海の彼方にある楽園)」の精神が静かに息づき、訪れる人を穏やかな安ら

ぎで包み込む。建築や調度の細部には南国の空気と日本の美意識が調和し、奄美という土地の本質的な豊かさを感じさせる。客室の窓からは雄大な太平洋を見渡すことができ、開放感のあるオーシャンビューが広がっていた。海に面した南国のリゾートでありながら、そこには過剰な装飾はなく、静けさと調和を重んじた美が息づいている。自然が創り出した雄大な景観を前に過ごすひとときは旅の余韻とともに、奄美という理想郷の記憶をそっと灯していく。



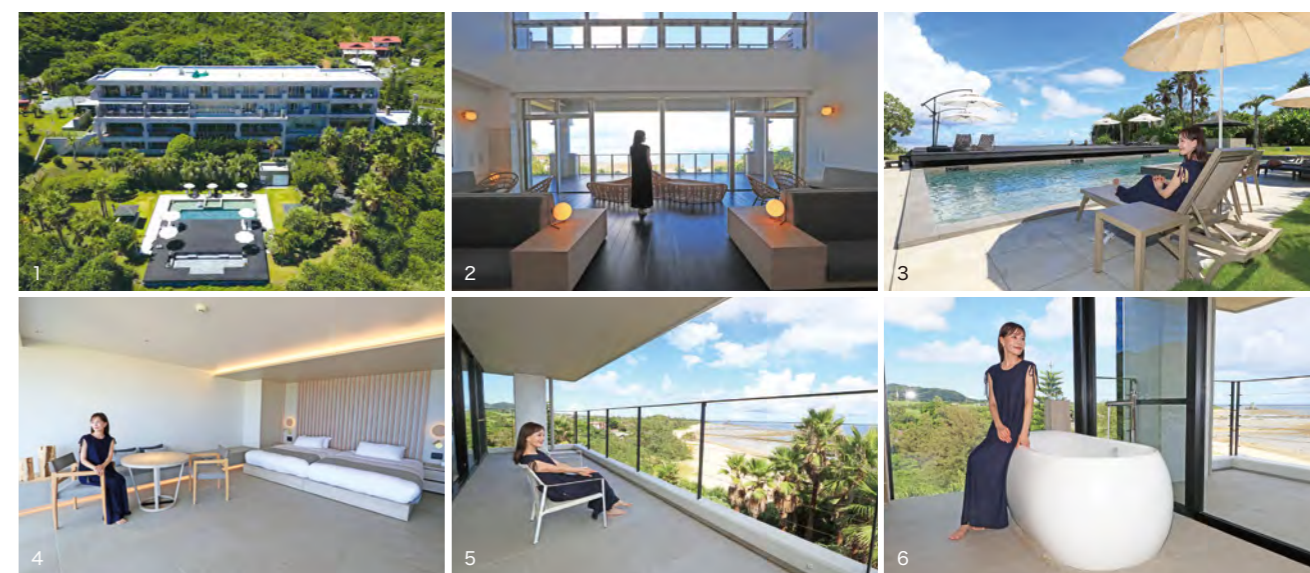
LEXUS LY650で奄美大島をクルージング。ビーチは海底まで見渡せる透明度。海は自然が描く最も純粋な青の世界を映し出している。

奄美の海は外洋に面した沖合ではコバルトにも似た濃いブルーが広がり、島に近づくにつれてビーチ周りの浅瀬が淡いエメラルドへと切り替わる。

青の深さを知る旅 奄美の海が誘う、時を忘れる瞬間

奄美到着後は澄んだ青い海と緑の自然。そして日本の伝統文化に触れる時間へと切り替わる。今回、奄美南部・加計呂麻への訪問を予定していたが、あいにく局地的な大雨の影響で島北部を中心としたクルージングへと航路を変更した。しかし、奄美大島は島の各所に多彩な景勝地が点在しており、結果として十分にクルージングを満喫できる行程となった。船は静かにエンジンを始動させ、港を離れて走り出す。やがて沖へ出るにつれて、海は深く濃いコバルトブルーの表情を見せ始める。一方、浅瀬は驚くほどの透明度を見せており、最初に訪れた大浜ビーチ沖合では白砂の上に差し込む光が水面の青を幾重にも重ね、淡いエメラルドから澄んだターコイズ

へと色の階調を描き出す。続いて訪れた笠利湾に位置する立神(たちがみ)は海面から突き出た岩の造形が見るものの心を惹きつけ、長い年月をかけて波が削り出したその形は自然の彫刻ともいえる雄々しさを湛えている。周囲を取り巻く静寂と、穏やかに流れる潮の音。船上から眺めるその景観は写真では伝わらない迫力と神秘的な気配を漂わせていた。その後、立神からほど近いビーチへと船を向けた。白砂が遠くまで続き、波が打ち寄せるたびに光が砂粒に反射して煌めく。デッキからその光景を眺めていると、時間の感覚がゆるやかに溶けていく。奄美の海はただ美しいだけではない。船でしか辿り着けない場所があり、そこでしか味わえない静けさがある。その特別な瞬間を手にてできるのはクルージングという旅のかたちを選んだ者だけ。陽光と潮風に包まれながら、奄美の海を歩くこと。それはまさに、人生の記憶に刻まれる至福の時間となる。



1. ホテルは名瀬港からレンタカーで約40分の場所にある。自然と静寂が調和する、優雅で落ち着いた雰囲気の魅力。2. 潮風が吹き抜けるテラス。視界いっぱいに広がる海が、日常をそっと遠ざけてくれる。3. プールサイドでは静寂と癒やしの時間を堪能できる。4. 客室「緑」。奄美で様々な縁が結ばれるようにと名付けられた特別な一室。柔らかな陽光が差し込み、部屋いっぱい光が満ちる。5. テラスに出れば、海へと続く美しい眺めが広がる。6. 奄美の伝統的な絹織物、大島紬とも縁深い、繭を思わせる柔らかなフォルムの浴槽が印象的。南国の開放感と奄美の精神が融合した上質な空間。



ホテル内には奄美の自然・文化・精神が織り込まれた大島紬や田中一村の作品を展示する大島紬美術館が併設されている。



襖いっぱい広がる光と命。田中一村が見た世界は今も南国のこの地で静かに輝き続けている。



◀ 緻密な設計のもと織り上げられた、職人の誇りを映す大島紬。菱刈鉱山の金を織り込んだ糸が柔らかな光を放つ。

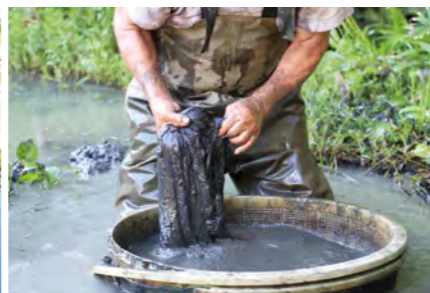
▼ 白布を染めるのではなく、一本の糸から丁寧に色を重ねて織られている。車輪梅(シャリンバイ)の深い染色が息づく織りは奄美の自然をそのまま映している。



緻密に計算された意匠が織りなす帯。一本の糸に宿る職人の感性が、静かな美を放つ。



奄美に受け継がれる独自の泥染めの技。その神秘的な染色工程をホテルに隣接する大島紬資料館で間近に感じる。



車輪梅(シャリンバイ)と泥が結び自然の化学反応。奄美の大地が生む深い黒の輝きが眼前に広がる。

織と絵が奏でる奄美の美学

ティダムーンの館内に併設された大島紬美術館は奄美の文化と美の深層を静かに伝える空間である。展示の中心をなすのは島の誇りともいえる大島紬と、画家・田中一村による襖絵。大島紬は完成までに十年以上を要することもあるほどの緻密な手仕事の結晶である。白い布を染めるのではなく、何万メートルにも及ぶ絹糸に柄を施し、その糸を計算し尽くされた順序で織り上げていく。ひとつの模様が姿を現すまでには気の遠くなるような工程と、職人の集中が積み重ねられている。展示されている紬の

うち、一つは鹿児島県の菱刈鉱山から産出された純金を糸に絡めて織り込んだ特別な作品。光の角度によって金糸が静かに輝き、織物でありながら絵画のような存在感を放つ。その傍らに並ぶのが、田中一村の襖絵。奄美の自然を独自の筆致で描いたこの作品はかつてアメリカの美術館へ渡る予定だったが、ホテルの創設者夫妻の強い想いにより日本に留められた。襖いっぱい広がる花々は大島紬のきらめきと呼応し、空間に生命の息吹をもたらす。ここでは紬と絵がともに語る。時間を超えて受け継がれた職人の技と、ひとりの画家が見た奄美の光。その二つが出会う場所には奄美に息づく美の精神が静かに宿っている。



奄美の海と島文化を知る時間
～島の風土に触れるリゾートステイ～

奄美の文化と自然を
“食”で表現する
ビストロ「奄味-AMAMI-」。
モデル：関口紫帆



島の心を映すおもてなしの膳

ティダムーンに併設されたビストロ「奄味-AMAMI-」は奄美の自然と人の営みを、食を通して感じさせてくれる特別な空間である。その名が示すように、ここで味わう料理は単なる郷土料理ではなく、奄美の暮らしや文化を丁寧に映し出した“島の記憶”そのものだ。提供される食事はその土地が持つ素朴な味わいと素材に宿る滋味を大切にしており、島の畑や海、そして森に育まれた自然の恵みを中心に、一品ずつ手仕事で仕上げられていく。器を前にすると、島の風景がふと脳裏に浮かぶ。潮風が吹き抜ける畑の匂い、木漏れ日の射す台所、夕暮れに染まる海の輝き。そこにあるのは旅人を迎えるために積み重ねられてきた“暮らしの味”だ。地の恵みと人の手が織りなすそのひと皿が、訪れる者の心をやわらかく解きほぐし、奄美という場所の豊かさを静かに伝えてくれる。



芭蕉の葉に季節のをせ、田芋やひつきやげなど、奄美の郷土料理を味わう。

奄美で育った車海老を使った「海老飯」は土鍋の中に旨みが凝縮され、立ちのぼる香りと深い味わいを堪能できる。



車海老の出汁が香る「海老飯」は薬味を添えながら少しずつ味の変化を楽しめる。



田中一村の絵に着想を得た「夜光貝のスペシャルプレート」。奄美大島産ローゼル(ハイビスカスの一種)をベースにした特製ソースを使用。



奄美の風土と人の温もりが息づく空間には島ならではのやわらかな空気が満ちている。

取材協力

奄美リゾートホテル ティダムーン
〒894-0505 鹿児島県奄美市笠利町平1260
TEL:0997-63-0006



YouTubeで
動画も配信中



YouTube

Japan Mobility Show 2025

10.30 Thu-11.9 Sun at Tokyo Big Sight



すべての人に移動の自由を——。

モビリティカンパニーへの変革を掲げるトヨタ自動車はJapan Mobility Show 2025において、従来とは異なる切り口で「未来のモビリティ体験」を提示。会場全体では陸・海・空といった多様なフィールドを視野に入れたモビリティの可能性が示されており、その中でLEXUSはラグジュアリーライフスタイルブランドとしての視点から、未来の移動体験をどのように拡張していくのかを探求。今回はそのビジョンの一端として「海のモビリティ」にも視点を広げたLEXUSブースを紹介する。

LEXUSは陸・海・空を視野に入れた360度モビリティを打ち出したブースを展開。その一角では海上領域を象徴するCATAMARAN CONCEPTを展示していた。



LEXUSプレスブリーフィングで語る、サイモン・ハンフリーズ。

Simon Humphries' Vision

サイモン・ハンフリーズ Chief Branding Officer (CBO) は Japan Mobility Show 2025のLEXUSプレスブリーフィングに登壇し、ブランドがこれから向かうべきラグジュアリーな方向性について語った。センチュリーをブランドの最高峰に据えることで、LEXUSはラグジュアリーを中心から、より自由で創造的な進化を遂げていく。その思想の核として示されたのが「DISCOVER」だ。誰の真似もせず、自信をもって切り拓く姿勢、そして冒険的で革新的であることが、お客様の新しいラグジュアリーライフスタイルの発見へとつながる。それがLEXUSの次なる価値観であると提示された。会場ではこうした思想を背景に、移動を単なる手段ではなく、空間や時間の質として捉え直すLEXUSの取り組みが紹介された。クルマという枠を超え、仕事からプライベートまでを横断する移動体験を描くことで、LEXUSは新たなラグジュアリーライフスタイルの可能性を来場者に提示していた。

モビリティショー開催にあたり、トヨタは「センチュリー」「LEXUS」「トヨタ」「GR」「ダイハツ」について、それぞれの役割を担うブランドとして再定義する方針を発表。その中でLEXUSは移動そのものの体験価値を広げるラグジュアリーライフスタイルブランドへの進化を打ち出している。未来の移動体験を、陸上だけでなく海や空へと広げていくという視点の一端を示す存在として、LEXUS CATAMARAN CONCEPTがブースに展示された。

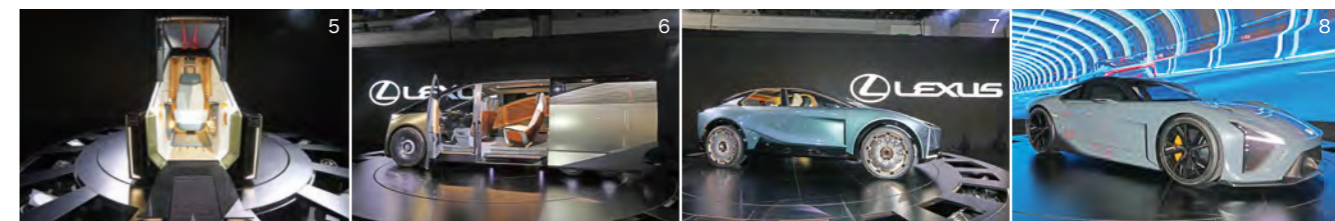


1. LEXUSが掲げる“DISCOVER ESCAPISM”を体現するCATAMARAN CONCEPT。2. 太陽光を取り込むハードセイルと自動操船技術を組み合わせ、海上で過ごす時間をより私的で自由度の高い空間へと変える提案が示された。3. 空の移動を日常へと近づける存在として注目されたJOBYは空域を次なるモビリティの舞台へと押し広げる可能性を感じさせた。4. 当日は陸・海・空を横断するLEXUSの360度モビリティ構想が、ブース全体を通して来場者に提示されていた。

360度モビリティが描く次世代の海上体験

従来の「Luxury Sedan」に代わる新たなフラッグシップの考え方として、LEXUSは「Luxury Space」という思想を掲げ、より自由度の高い移動体験を追求する姿勢を明確にした。会場には陸のモビリティに加え、空のJOBY、そして海上のCATAMARAN CONCEPTが並び、移動の概念が多層的に広がっていく様子が立体的に示されていた。海上での上質な移動体験を提案するCATAMARAN CONCEPTは2019年にブランド初のラグジュアリーヨットとして誕生した「LY650」を起点に構想が深められてきたものだ。LEXUSが海のモビリティを継続的に展開していくうえで重視したのは、単なる移動手段ではなく、よりラグジュアリーな時間と

空間そのものを提供するという視点だった。そのために求められたのが、快適性のさらなる進化と環境負荷の低減である。その思想を具現化する要素として採用されたのが、太陽光パネルを組み込んだハードセイルと自動操船技術だ。風と太陽光を活用して環境への配慮を図りつつ、クルマの自動運転技術を応用することで、長時間にわたり船員を必要としない航行を可能とした。そこに生まれるのは誰にも邪魔されない海上の時間。日常から切り離された“真のエスケープ”が、静かに成立している。さらに、双胴を採用したカタマラン形式の船体は高い安定性を備え、ゆとりある船内空間を実現する。360度モビリティの充実が暮らしそのものを変えていく。移動の自由が広がることでライフスタイルに変化が生まれ、行き先の制約がなくなることで、住む場所の選択肢にも影響を与えていく。その発想から着想を得た「LEXUS HOUSE」も発表されるなど、ラグジュアリーな次なる方向性が、会場全体を通して静かに描き出されていた。



5. 路地まで自在に入り込めるコンパクトさと、完全自動運転によるプライベート性を兼ね備えたLS Micro Concept。誰にも邪魔されない洗練された一人の移動時間を追求した、新たな都市型モビリティの提案だ。6. LS Conceptは“Luxury Space”を体現するショーファーカーとして構想され、VIPを中心とした使用シーンから導き出された6輪レイアウトを採用。喧騒から隔絶された静かなインテリアが新たな移動の聖域を描き出した。7. DISCOVER DUALITYを掲げるLS Coupe Conceptはフォーマルな気品と情動的なダイナミズムを併せ持つ造形を追求。スポーティーなボディと広い室内空間を融合し、乗員それぞれが各々の体験を味わえる新しい空間を提示していた。8. DISCOVER IMMERSIONを掲げるSport Conceptは革新的なスタイルと伝統的スポーツカーの血統を一体化。ワイド&ローの力強いプロポーションと没入感あふれるコックピットが、次世代のスポーツカー像を切り開いていた。



FORMAL×FLAIRを掲げたセンチュリーのクーペ型コンセプトモデルはドライバーズカーとショーファーカーの二面性を併せ持つ独自性で大きな注目を集めた。



江戸彫金によるエンブレムが象徴的な存在感を放ち、外板色には鳳凰を想起させる日本の伝統色「緋色(ひいろ)」を採用。助手席側には前後両開きのスライドドアが設けられ、贅沢な前後スペースとフルクライミングが叶える上質な寛ぎが用意された。



1. マットブラックの外装が重厚な存在感を放ち、扉を開けば緋色のインテリアが艶やかに浮かび上がる特別仕様のセンチュリー。オーダーメイドならではの対比が色気を宿し、唯一無二の世界観を静かに際立たせていた。2. 新グリルが放つ強い存在感に加え、西陣織の技を取り入れた西陣カーボンが随所に光るセンチュリー-GRMN仕様。センチュリーの格式を保ちながら、運転する喜びを求めるユーザーへ明確に応える特別な仕立てとなった。3. 会場には1967年に誕生した初代センチュリーも展示され、半世紀を超えて受け継がれる日本の最高峰サロンの原点が静かに存在感を放っていた。

トヨタが示す 次世代のモビリティ像

今回のトヨタブースは自動車からモビリティ全体まで広く視野を拡張した構成となっており、その中でも注目を集めたのが、これまでトヨタの最上級セダンとして存在してきたセンチュリーの“独立ブランド化”である。最高峰かつ別格の存在としての位置づけはそのままに、“Japan Pride”を掲げるブランドとして新たなステージに踏み出した。そして、その展開を象徴するモデルとして世界初公開され

たのがセンチュリークーペである。このモデルでは「ドライバーズカーとショーファーカーの両立」を図る設計がなされており、助手席側には前後二方向へ開くスライドドアを採用。乗降性を高めるために大きく開口部を確保している。その外観は伝統と革新を纏い、「唯一無二の日本発プレミアム」としての存在感を放っていた。ただし、今回トヨタが提示した方向性はセンチュリーに限られない。実用性と多様性を併せ持つ新型モデルの数々もまた、同社が描くモビリティの未来像を物語っていた。たとえば、オフロードの伝統と信頼性を受け継ぎながら、「Freedom & Joy」という新しい価値観を提供するランドクルーザー“FJ”や「次世代カローラ像」を提示する

トヨタ自動車(車両展示)



トヨタブースはラグジュアリーからユーティリティまで、多層的な次世代モビリティが展示された。“自由”という感性を加えたランドクルーザー“FJ”、世界の道路事情に応えるCOROLLA CONCEPT。働く人を支えるHIACE CONCEPT。それぞれテーマは異なりながら、モビリティの可能性を多方向に拡張する姿勢が鮮明だった。



現地での組み立てを前提とする IMV Origin が地域に仕事を生み、COMS-X は安心操作でラストワンマイル輸送を支える姿を示した。さらに会場にはトヨタG1型トラックとAA型乗用車が並び、トヨタの原点と未来像が一堂に見える構成となっていた。

各種体験展示



TOYOTA Kids mobiは安全性を軸にAIと自動運転の未来像を描き、子どもの成長に寄り添う“ともだち”のようなUXが特徴だ。会場には未来の相棒と写真が撮れる Kids mobi photo spotが設けられた。さらにキギザニアとの取り組みにより、モビリティの多様な仕事を体験する「こども達が働く街」も設けられた。



会場では「boost me」「walk me」「challenge me」による多様な移動提案が披露され、AIラジオとARで未来のドライブを体験するCYBER LOVE experienceも注目を集めた。さらに水素サウナの日本初公開や国産大豆を支えるHAPPY AGRIなど、幅広い取り組みが一堂に紹介されていた。

舟艇展示



屋外ではPONAM-31 Z グレードの陸上展示が行われた。内装の質感やシートの座り心地、フライブリッジからの眺望まで、実艇を細かく見ることもでき、こうした体験を通じて、多くの来場者がトヨタの海モビリティに触れる機会となった。

カローラコンセプト。アフリカの農村での使用を念頭に、極めてシンプルな構造と“未完成のまま出荷する”という発想を採用し、現地での組み立て作業を新たな雇用として生み出すことまで見据えたIMV Originなどである。これらはそれぞれのライフスタイルや用途に応じて、多様な“移動の選択肢”を提供する意志の表れでもあり、トヨタというひとつの企業が、単に“クルマをつくる”のではなく、ユーザーの生活、価値観、そして未来の暮らしに応じたモビリティ像を多面的に提案する姿勢を表現している。センチュリーの再定義と多様な新型モビリティの提案を通じて、トヨタが描く移動の未来がより鮮明になっていた。

PONAM-31II

人と環境の未来へ進化する NEW PONAM-31II誕生

今回新たに発表された「PONAM-31II」は、フライブリッジの機能性や船内の居住性に配慮した造り込みを進めるとともに、TM-CASTの進化によりスマートフォン、スマートウォッチでの操船も可能となった。さらに動力面ではカーボンニュートラル燃料に対応可能な次世代エンジンを搭載することで、小排気量、軽量化とともに高出力を実現。機能性、操作性、環境性能を軸とした次世代プレジャーボートの在り方を、明確に示す一艇に仕上げられている。



カーボンニュートラル燃料にも適応する次世代エンジンを搭載したPONAM-31II。ハル構造はアルミハルを採用し、力強く安心感のある乗り味を楽しめる。

新たなリアガーニッシュ形状によって、アフトデッキに入り込む風の流れを低減している。

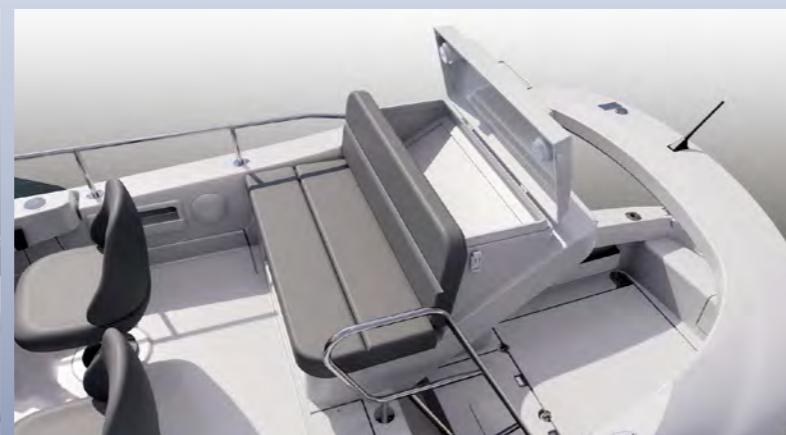


次世代を見据えた多角的な進化

「PONAM-31II」は外観と機能性、そして心臓部となるエンジンまで、多面的な進化が施された一艇だ。エクステリアではフライブリッジのコンソールに最大16インチディスプレイを2枚装備できるようになり、操船時のディスプレイの視認性が一段と向上している。コンソール周りは設計が見直され、乗船時に生じていた足との干渉度合いも軽減されている。また、フライブリッジ後部座席にはカバー等を収納するスペースが新設され、利便性が高まったことに加え、アフトデッキにもフェンダーやカバーを収められる収納スペースを追加し、乗下船時や係留時の装備管理がより円滑になった。他にも、リアガーニッシュの形状変更により、アフトデッキへのスプレーを抑えている。また、新たに搭載される新エンジン「M1GD-VH」はランドクルーザーをはじめとする過酷な環境下で高い信頼性を実証してきた自動車用エンジンをベースにマリナイズしており、小排気量と軽量化を図りながら、高出力を実現している。さらにはカーボンニュートラル社会を見据え、普及が予測されるHVO燃料にも対応するなど、環境性能においても、将来展開を見据えた高いポテンシャルを備えている。



フライブリッジのコンソールは最大16インチディスプレイを2枚装備できる。また、足元との干渉が改善されたことで、より自然な姿勢で操船できるレイアウトとなっている。



ゲストシートの後方には新たに収納スペースとカップホルダーが設けられ、フライブリッジのカバーや小物をスマートに保管しつつ、ドリンク類を安定して置ける快適性が追加されている。



アフトデッキにはフェンダーやカバーを収められる収納が追加され、係留準備や乗下船時の煩雑さを抑えつつ、デッキ全体をすっきりと整えられる構成に仕上げられている。



インテリアはシンプルながら、洗練されたテイストでまとめられている。



1. シンク付きカウンターテーブルを備え、快適な船内空間を演出。2. オプションの可変型ナビゲーターシートはサロンの自由度を高めながら、同乗者がより自然な視界と姿勢を確保することをサポートしてくれる。3. 上質な雰囲気包まれたパウバースには天窓が設けられ、停泊時でも圧迫感が少なく、リラックスして過ごすことができる。

シンプルで洗練された室内空間に 使いやすさを実現

内装デザインは誰もが直感的に受け入れられるシンプルかつ洗練されたテイストでまとめられている。その背景には流行に左右されないことで、愛艇として長期にわたって乗り続けていきたいという想いが込められている。サロンにはベンチシートを配置し、仲間や家族との歓談スペースとして利用可能で、テーブルを下降させるとソファベッドへ変形できる構造だ。加えて左舷側にはオプション設定で可変型ナビゲーターシートが用意され、バックレストを前後に調整することで、

ソファベッドをより幅広く使用できる。クルージング時にはゆったりと腰掛けるスペースとして、夜間や仮眠が必要なシーンではより広々とした空間として、日帰りからマリーナステイまで幅広いシーンに対応してくれる。シート下には収納スペースも設けられ、サロン内の収納力も大きく向上した点にも注目したい。また、オプションでジャイロの搭載にも対応するなど、揺れの少ない操船とサロンでの快適な滞在を両立させている。PONAM-31Ⅱは艇内の様々なエリアにおいて、柔軟性と機能性を高めており、必要なシーンで必要な形へ変化させるスタイルはまさに現代のプレジャーボートが求める価値を体現するものといえる。



ベンチシートはテーブルを下げることでソファベッドとして利用でき、シーンに応じて使い分けることができる。

操船を支え、未来を見据える

PONAMシリーズではトヨタが培ってきた自動車技術の知見を応用した操船支援システムが取り入れられているが、PONAM-31IIではさらに利便性を高める新機能”スマホ操船”が設定された。スマホ操船は従来ジョイスティックで行っていた操船を、スマートフォンやスマートウォッチの専用アプリから行える仕組みで、TDA+の操船操作はもちろん、TVASやTDSの操作も、画面のタップやスワイプ操作で直感的にコントロール可能。少人数での離着岸時に操船者の自由度を高め、より安全でスマートな操船をサポートしてくれる。

また、PONAM-31IIはサーキュラーエコノミーを意識したものづくりにも踏み込んでいる。リサイクル率の高い高強度アルミ合金を用いたハル構造に加え、カーボンニュートラル社会を見据えたHVO燃料対応のマリンエンジンを採用。さらに、リサイクル処理素材を活用したECOファブリックをサロンソファなどに採用。一部には海洋漂着プラスチックを原料とした「OCEAN THREAD®」を活用するなど、環境負荷低減と快適性を両立させる取り組みを積み重ねている。単なる移動手段としてのボートではなく、長く使い続けることを前提とした価値観が、随所に反映された一艇だ。

■スマホ操船



スマート操船の操作は専用アプリである「My PONAM」から行う。画面の船を指で上下左右に動かすことで、船を前後進・左右に操船移動することができる。スマートフォンだけでなく、スマートウォッチでも同様の操作が可能になっている点にも注目である。

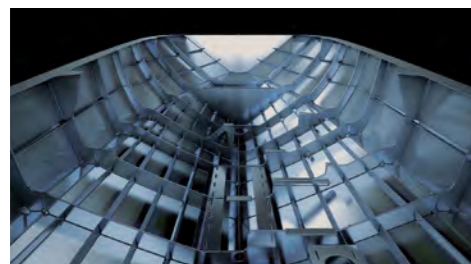


スマートフォン操作画面



スマートウォッチ操作画面

■アルミハル



ハルにはリサイクル率の高い高強度アルミ合金A5083を使用。フレーム構造は衝撃シミュレーション解析や様々な実験データを検証し、ハル全体で波の衝撃を効果的に分散する。

■ECOファブリック



リサイクル処理素材を活用・開発したECOファブリックをサロンソファなどに採用。環境負荷の低減を意識しながら、船内空間に求められる質感や快適性にも配慮した素材選定を行っている。

世界とつながり、次のモビリティを示す感謝の舞台

「WORLD ARIGATO FEST. 2025」開催



海上栈橋に並んで係留された2隻のLEXUS LY650。クルージング体験の拠点として、都市の水辺で静かな存在感を放っていた。



ゲストを迎え入れる会場となったのはウォーターズ竹芝にあるBANK30。都心いながらリゾートを味わえる特別な場所として、東京のベイエリアの新たな遊びを演出する。

高層ビル群を映し込む水面を優雅にクルージング。都市と海が交差する東京の景観の中で、特別な時間が紡がれていく。



10年ぶりのリアル開催で示された感謝と次章への意思

2025年12月、トヨタ自動車は世界各国のステークホルダーを日本に招き、「WORLD ARIGATO FEST. 2025」を開催した。本イベントは1984年から4～5年に一度行われてきた「世界大会」をルーツに持つもの。前回2020年はコロナ禍の影響でリモート開催となり、リアルでの実施は実に10年ぶりとなった。節目となる今回、名称を刷新し、これまで以上に開かれた場として再構築された点も象徴的だ。会場には国内外の販売店、投資家、自治体関係者、さらには協業会社のトップなど、多彩な顔ぶれが集結。トヨタが今後投入を予定する新型車や、開発中のさまざまなモビリティが披露され、来場者はその現在地と先に広がるビジョンを体感した。また、一部の参加者にはクルマだけにとどまらないモビリティ体験として、海上クルージングも実施された。乗船前に集うBANK30の会場内にはLEXUS LY680の模型やパネル展示を用いた空間演出が施され、その先の海上栈橋にはクルージングに使用されるLEXUS LY650が2隻係留されていた。参加者は順番に乗船しながら東京湾へと出航。静かな水面を進むひとときは陸上とは異なる視点からLEXUSの世界観とトヨタが描くモビリティの多様性に触れる時間となった。



会場ではLEXUS LY680をモチーフとした模型やパネル展示による装飾が施され、LEXUSの世界観が演出されていた。



イベントの詳細はトヨタタイムズニュースで一部公開中。会場の様子や展示内容を、公式レポートでチェックしよう。



社会という大海原で、
自分の人生の舵を取る



Manon Le Guen

外洋に出れば、すべての選択が自分に返ってくる。エンジンも補助もないヨットで大西洋を単独横断する「ミニトランザット」は世界中の若きセーラーが挑む過酷な外洋レースとして知られている。その舞台に日本から挑んだのが、女性セーラー・高原奈穂選手。幼少期に家族のレジャーとして親しんだ海はやがて彼女の人生そのものとなった。学生時代のクラブ活動、少人数セーリングへの傾倒、そしてフランスでの挑戦。海と向き合い続ける中で重ねてきた選択と決断は彼女に何をもたらしたのか。その軌跡を辿る。

高原奈穂選手プロフィール

(たかはら なほ)

日本を拠点に活動する外洋セーラー。幼少期から家族のレジャーを通じて海に親しみ、大学時代に本格的にセーリングを始める。学生主体のヨットクラブで経験を積み、少人数・単独セーリングに魅力を見出す。2025年には単独大西洋横断レース「ミニトランザット」に挑戦。現在は震ヶ関キャピタル株式会社に不動産事業に従事しながらフランスで外洋レース活動を行っている。

海が日常に溶け込んでいた幼少期

高原選手のセーリング人生は特別な英才教育から始まったわけではない。エンジニアである父が趣味として楽しんできたセーリングに、家族で同行するところからその時間はスタートする。3歳頃にはすでに大阪湾に浮かぶヨットの上におり、釣りやバーベキューを楽しむなかで、ごく自然な家族のレジャーとして海と親しんでいたという。「海に行くこと自体が日常の延長だった」と語る彼女にとって、ヨットは競技でも訓練でもなく、まずは家族と過ごす場だったのである。

少人数セーリングが開いた外洋への扉

本格的にセーリングと向き合う転機が訪れたのは大学2年生の初めである。慶應義塾大学の「慶應クルージングクラブ」に所属し、学生主体の活動に身を投じた。部員自らが船舶免許を取得し、整備や航海計画を担う。長期休暇には大島や新島まで航海し、自分たちで計画を立て、船を動かし、海と対話する日々を重ねていく。こうした経験を通じて、彼女はセーリングの奥深さに気づいていく。潮の流れ、天候の変化、天気図の読み解き。船底塗装や艀装といったメンテナンス作業も含め、ヨットは単に帆を張って走るだけのものではない。複合的な判断と準備の積み重ねが、安全で自由な航海を支えていることを、身をもって学んだ。

そして次第に、「一人で、どこまでできるのか」という問いが、彼女の中で大きくなっていく。コロナ禍をきっかけに、その問いは具体的な形を持ち始める。OBの船で体験した2人乗りセーリングは少人数だからこそ一人ひとりの役割が大きく、操船の面白さが際立つものだった。やがて、日本最大級の2人乗り外洋レース「初島ダブルス」の存在を知り、外洋レースという世界にアンテナを張るようになる。同時に、海外の女性セーラーの存在も彼女の視野を広げた。世界一周レース「ヴァンデ・グロブ」で活躍する若い女性ソロセーラーたちの姿は彼女にとって強い刺激となった。男性中心で年齢層も高いヨット界において、女性が主体的に船をコントロールし、決断を下す。その姿に、「自立した人」「強い女性像」を重ねるようになる。少人数、あるいは単独でのセーリングはトライ&エラーを重ねながら成長していく彼女の性格にも合っていた。誰かに任せることはできない。自分の判断に責任を持ち、結果を引き受ける。その緊張感こそが、最大の魅力だった。

「憧れ」が「挑戦」に変わった瞬間

大学4年生のとき、白石康次郎氏のチームを手伝う機会を得たことで、彼女の進む道は決定的なものとなる。そこで知ったのが、フランス発の単独大西洋横断レース「ミニトランザット」だった。「これは自分のためのレースだと思った」そう直感した彼女は就職後もその思いを手放さなかった。2023年6月、フランスへ渡り、同じような境遇の若者たちが助け合いながら挑戦する姿を目の当たりにする。その光景は「自分にもできる」という確信へと変わった。とはいえ、道りは平坦ではない。スポンサーは見つからず、借金をして船を購入。言葉や習慣の違いにも直面した。それでも彼女はそれらを「苦勞」ではなく、自ら選んだ「チャレンジ」として受け止めている。日本では2022年から蒲郡を拠点に2人乗りのトレーニングを重ね、フランスでは一人乗りの練習プログラムに参加。準備のすべてが、単独で海に出るための現実的な積み上げだった。

フランスを拠点にしたトレーニング期間では言語や習慣の違いもすべてが学びの対象となった。周囲と意見を交わしながら、艇の調整や整備作業も自ら行う。異文化の中で積み重ねてきた日々が、単独で大西洋に向き合うための判断力を形成した。





大西洋を単独で走り切り、ゴールラインを越えた瞬間に彼女の胸に広がったのは達成感よりもまず「安堵」だったという。続いて込み上げてきたのはスタートまでを支えてくれた多くの人々への「感謝」だった。一人で完走したレースの背後に、確かな支えがあったことを実感した瞬間でもあった。

単独航海で試された冷静な判断力

そうした準備を積み重ねた末、高原選手はついに「ミニトランザット」への出場に至る。日本でのトレーニング、フランスでの単独練習、船の準備や環境整備。その一つひとつが、スタートラインへと続く長い道のりだった。そんな「ミニトランザット」はスタートラインを越えた瞬間から、「自分との対話の時間」へと一気に切り変わる。外界との接点は限られ、目の前にあるのは果てしない海と、自分自身だけ。彼女はレース中に感じる恐怖や不安を「ノイズ」と表現する。漠然とした不安は意識的に遮断し、必要以上に考えない。だが、浸水といった緊急事態に直面したとき、その姿勢は一変する。恐怖を感じる間もなく、「どう解決するか」という具体的な思考へと切り替わる。実際、波高3メートルという荒れた海況の中で浸水が発生した際も、彼女は冷静だった。排水を行い、原因を特定し、修理する。その一連の動作に、感情が入り込む余地はない。これまで積み重ねてきた準備と経験が判断を支えていた。

最大の敵は「自分自身」だった

単独レースにおける孤独について、彼女はネガティブな印象を持っていない。孤独は自ら選んだ状況であり、他の約90艇のセーラーも同じように一人で海に向き合っていると理解しているからだ。むしろその時間すらも、自分自身に問いを投げかける「自問自答の時間」として、哲学的に楽しんでいたという。レース中の生活は極めてシンプルで、食事はアルファ米やフリーズドライ食品。日の出を見ることが、食事の時間が数少ない楽しみとなる。睡眠は一度に20～45分程度を小刻みに取り、常に状況を把握し続ける。そうした過酷な環境の中で、最大の敵となったのは自然でもトラブルでもなかった。「怠惰な自分との戦い」だったと彼女は振り返る。レース中、高原選手の内面では常に二人の自分がせめぎ合っていたという。前へ進むために努力すべき自分と、休みたい、楽をしたいと嘯く自分。その葛藤を乗り越えるため、彼女は実際に二つのぬいぐるみを艇内に持ち込んだ。正しい判断を知っている“ペンギン”と、妥協を

誘う“エイリアン”である。迷いが生じたときはこの二者に議論をさせるように自問し、必ずペンギンの声を選ぶ。エイリアンに負ければ時間を失うだけだと自らに言い聞かせながら、理性的な選択を積み重ねていった。監視する人がいない単独航海だからこそ、自分で自分を律し続けることが何より難しく、同時に最も重要だったのである。

それでも、彼女は一つの信念を確立していく。「できない」と感じる状況に直面しても、今できる小さなことを積み重ねていけば、最終的には成し遂げられる。大西洋を横断するという途方もない目標も、その連続の先にあった。完走した瞬間、胸に広がったのは達成感よりも、まず「安堵」だったという。そして次に溢れてきたのはスタートまで支えてくれた多くの人々への「感謝」だった。一人で走り切ったレースでありながら、その背後には確かに人のつながりがあった。この経験は彼女に二つの大きな気づきをもたらした。一つは完璧でなくても物事を最後までやり遂げることの重要性。もう一つは人間の技術力が進歩しても、自然は完全にはコントロールできないという事実と、その存在への畏敬の念である。

高原選手が出場した「ミニトランザット2025」は2025年9月21日にフランス西部のレ・サールブルードロンヌからスタート。レースは単独・無補助で大西洋を横断する形式で、カナリア諸島サンタ・クルス・デ・パルマを経由し、最終的にカリブ海のグアドループ島サンフランソワに至る約4,050海里(約7,500km)の航路を設定している。外部支援を一切受けられないこの過酷な挑戦は世界の若手外洋セーラーが競い合う登竜門レースとして名高い。TOYOTAアスリートとして、このレースに初参戦を果たし、現地関係者の間でも注目を集めていた。



8月に都内で開催された記者発表会には報道陣に加え、多くの関係者が集まった。大一番の前にした彼女を囲み、それぞれの立場から言葉を交わし、挑戦へ向かう背中を後押しする場となった。



Sail for Well-being

現在、高原選手が掲げているスローガンが「Sail for Well-being」。自分の人生の舵を自分で握り、ベストを尽くして進む。その考え方は会社員としての生活とセーラーとしての活動、両方に通じている。今後は自身の経験を伝える活動にも力を入れていきたいと語る。特に、将来に悩む若者にとって、新しい挑戦のきっかけ、いわば「夢の追い風」になればと願っている。外洋セーリングを続ける理由は極めてシンプル。準備段階も含めて視野が広がり、自分自身が更新されていく感覚がある。何より、ヨットとセーリング、そして海が好きだからだ。2026年もフランスを拠点に外洋レース活動を継続する予定の高原選手。次にどの海を目指すのか、その航路はまだ定まっていない。しかし、彼女が自分の人生の舵を離さないことだけは確かである。



高原奈穂選手の
公式Instagramは
こちら





首都圏と海をつなぐ 都市型マリーナ



ニューポート江戸川は都内でも充実した設備を備えるマリーナとして、会員制マリンクラブや併設レストランを有し、首都圏でのマリンライフを幅広くサポートしている。

東京湾に直結する マリンライフの拠点

東京都江戸川区の旧江戸川沿いに位置するニューポート江戸川は都心から約20分という優れたアクセスと、充実した設備を併せ持つ都市型マリーナだ。母体となる江戸川造船所は昭和25年創業の老舗企業で、当初は造船所として事業を開始し、現社長の浅見氏は三代目にあたる。約40年前にマリーナ事業へと舵を切り、現在は都

内でも圧倒的な人気とシェアを誇るマリンクラブの運営を中心に、ボート販売やレンタルボート事業など、ユーザーのマリンライフを幅広く支えている。クラブハウスの二階にはレストラン「トリム」が併設され、水辺の眺望を楽しみながら優雅な食事を楽しめる。メインフィールドとなる東京湾はシーバスをはじめとする釣り場にも恵まれており、近年はタチウオやサワラが湾内で回遊するなど、ボートフィッシングも非常に盛んなフィールドである。クルージングでは東京

ディズニーリゾートを海から見るプランや、お台場・レインボブリッジを巡るアーバンクルーズ、羽田空港での離発着見学など、首都圏ならではの景観を堪能するコースが揃う。春には隅田川のお花見クルーズ、夏には江戸川など近隣のエリアで花火大会を船上からも楽しめるなど、季節に応じたイベントも豊富だ。東京湾の多彩な遊び方に、独自のマリンクラブ運営と柔軟な艇利用の仕組みを重ね、都市型マリーナとして新たな可能性を切り開いている。



大型艇にも対応できる揚降体制を備えており、マリーナとしての設備水準も非常に高い。係留桟橋には十分なゆとりがあり、ビジター係留も可能なため、レストランを利用しに訪れるオーナーも多い。



経験豊富な整備スタッフが常駐し、点検・整備を日常的に行える体制が整っている。

老舗の経験が裏付ける ポナムの魅力とは

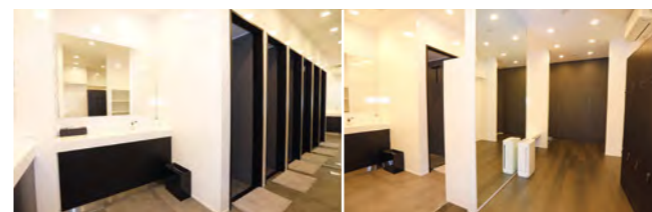
東京都江戸川区で長くマリーナ運営を手掛けるニューポート江戸川。その代表である浅見社長に「PONAM」シリーズの印象を尋ねると、まず語られたのは走行性能への深い信頼である。「トヨタの船は安定感があり、堅牢な造りが乗船時の安心感につながっている」という。波当たりが良く、荒

れ気味の海況でも余計な挙動を見せない点を、浅見社長は高く評価する。その理由として挙げるのが、トヨタが採用するアルミハルやトヨタハイブリッドハルの特性である。FRP艇に比べて波を叩く感覚が少なく、乗り味の滑らかさが際立つという。また、内装や居住性能への評価も高く、顧客からは「高級感がある」「船内で過ごす時間が快適だ」といった声が多い。さらに、トヨタ独自の操船支援システム「TVAS(トヨタパー

チャルアンカーシステム)」については特にフィッシング時にその真価が発揮されると語る。任意の位置と向きを保持できるため、初めて船を所有するオーナーからも肯定的な声が寄せられている。「PONAM」シリーズが築いてきた堅牢性と快適性、そして操船支援システムの持つ革新性が、多様なユーザー層に支持される理由を改めて示すインタビューとなった。



1. 2. マリーナには販売艇やマリンクラブ艇など、様々なタイプのボートが陸置きされている。3. 小型船舶免許の学科や実技の試験会場にもなっており、免許取得後のマリンライフ相談にもスムーズに対応できる。4. クラブハウスの二階にあるマリーナレストラン「トリム」は白を基調とした開放的な空間で洗練された食事を楽しめる。5. テラス席も備わっており、天候の良い日は水辺の空気を感じながらゆったりと寛げる。6. クラブハウスでは釣りからクルージングまで多彩な遊び方を提案してくれる。7. クラブハウスの一角に配置されたショップでは様々なマリンアイテムを気軽に手に取ることができる。8. 会長は国際カジキ釣り大会での優勝歴を持つなど、カジキ釣りの分野でも多数の実績を誇る。



新設されたシャワールームは清潔感もあり、上質なホスピタリティを感じさせる。更衣室には広く使える鏡とエアコンが備わり、帰港後も安心してリフレッシュできる。



今回インタビューに応えてくれた浅見洋史社長。長年の経験に基づき、幅広い艇種を揃えるマリンクラブを運営するなど、多様な海の楽しみ方を提案してくれる。

ニューポートマリンクラブとは？

オーナー感覚で利用できる都内最大級の会員制クラブとして知られ、小型フィッシングボートから41フィートの大型クルーザーまで、全23艇を会員専用ラインナップしている。入会すれば目的に応じて船を選べ、準備・清掃・メンテナンスといった煩雑な作業は不要。予約した日にマリーナを訪れてそのまま出航し、帰港後も洗艇や清掃をすることなくスムーズに帰れる。また、遊び方に応じて艇の種類を選べる柔軟性も非常に高く、釣りやクルージングなど幅広いニーズに対応している。初めての海域へ向かう際には経験豊富なクルーを派遣するサポートもあり、ビギナーでも安心して新しい遊びに挑戦できる。



A. ニューポートマリンクラブでは全23艇を会員専用揃えており、目的に応じて自由に艇を選べる。B. PONAMシリーズもクラブ艇となっており、PONAM-28Vをはじめ、PONAM-28GII、PONAM-28IIが揃う。2026年4月からはPONAM-31Xも新たに稼働予定。

PONAM-31II

SPORT UTILITY CRUISER



PONAM-31シリーズは「スピード」「乗り心地」「居住性」のすべてにこだわった設計により、「走りの楽しさ」を体感できるスポーツユーティリティクルーザーとして高い評価を得ている。走行時には優れたスピードと安定感を両立し、スポーティーなクルージングフィールを存分に味わえる点が特徴。フライブリッジの機能性やサロンの居住性を高めた設計に加え、操船支援システムTM-CASTではスマートフォンやスマートウォッチでの操船も可能となっている。また、動力面ではカーボンニュートラル燃料にも対応する次世代エンジンを採用し、小排気量、軽量化、高出力とともに環境にも配慮している。

PONAM-31II	
全長/全幅	10.57m/3.20m
エンジン型式(ディーゼル)	M1GD-VH
排気量	2,982cc × 2基
最高出力	184kW(250PS) × 2基
使用燃料	軽油
ハル	アルミ合金製
燃料タンク容量	620リットル
清水タンク容量	110リットル
定員	12名(フライブリッジ 5名)
航行区域	沿岸

詳細はこちら



PONAM-31

SPORT UTILITY CRUISER



Zグレード



Xグレード



※写真はZグレードです。

※写真はXグレードです。

「Zグレード」は“Workcation Utility & Luxury Party Style”をコンセプトに、利便性とスタイリッシュさを両立する新装備を採用。クルマのドレスアップパーツを手がける「MODELLISTA」とボート初のコラボレーションにより、先進性と優美さを併せ持つデザインを創出した。

「Xグレード」ではネイビーカラーをアクセントにしたレザー調インテリアを採用し、ソファやテーブルの高さを抑えることで、開放感のあるサロン空間を演出。Z・X両グレードともに、オプションで安心かつ正確な離着岸を支援するTDSに加え、次世代操船支援システムTDA+の搭載にも対応し、操船時の負担軽減に寄与する。

PONAM-31	
全長/全幅	10.57m/3.20m
エンジン型式(ディーゼル)	M1KD-VH
排気量	2,982cc × 2基
最高出力	191kW(260PS) × 2基
使用燃料	軽油
ハル	アルミ合金製
燃料タンク容量	620リットル
清水タンク容量	110リットル
定員	12名(フライブリッジ 5名)
航行区域	沿岸

詳細はこちら



PONAM-35sv

PREMIUM CRUISER



PONAM-35svは外洋での本格的な釣りにも対応できる優れたフィッシング機能に加え、居住性能の高いラグジュアリーなサロンを兼ね備えたプレミアムクルーザー。次世代のトヨタハイブリッドハルは高強度FRP、カーボン繊維、アルミ合金の異なる特徴を持つ素材を最適に配置させる新たな工法で、軽量化と高剛性化を両立。開放感溢れるサロンにはウッド調のフローリングを設置し、カラーリングを一新することで、モダンさの中に和を感じられる心地よい空間を演出。パウダールームはシャワールームとトイレ空間を分離することで、使いたくなる清潔な空間を実現。また、風や潮流の影響を軽減し、直感的なジョイスティック操作を実現する次世代の操船支援システムTDA+(トヨタドライブアシストプラス)を導入(オプション設定)している。※TDA、TVAS、TDSは標準装備。

PONAM-35sv	
全長/全幅	11.95m/3.94m
エンジン型式(ディーゼル)	M1VD-VH
排気量	4,461cc × 2基
最高出力	272kW(370PS) × 2基
使用燃料	軽油
ハル	トヨタ ハイブリッドハル
燃料タンク容量	1,000リットル
清水タンク容量	170リットル
定員	12名(フライブリッジ 5名)
航行区域	沿海

詳細はこちら



PONAM-28V

PREMIUM SPORT CRUISER

生産終了

※詳細はお近くのトヨタマリン販売店にお問い合わせください。



Sグレード



PONAM-28VはFRP、アルミ材、カーボン繊維の3種類をバランス良く使用したトヨタハイブリッドハルを採用し、従来のアルミハルに比べ、同等以上の剛性感と凌波性を実現するだけでなく、船体重量の軽量化にも成功している。さらに、1基掛けエンジンでは世界初となる1軸TVASには作動中の充電機能を追加しており、使用時間が従来の約2倍に延長されたことで、これまで以上に長時間のフィッシングにも対応可能となった。船体のデザインはカーデザインで採用される複雑な3D曲面により、立体的なフォルムと曲線美を追求し、美しいデザインを実現。他にも、キャビン内には自動車で培った技術を応用した除湿機能付きマリンエアコンを搭載している。

PONAM-28V	
全長/全幅	9.14m/3.16m
エンジン型式(ディーゼル)	M1KD-VH
排気量	2,982cc × 1基
最高出力	191kW(260PS) × 1基
使用燃料	軽油
ハル	トヨタ ハイブリッドハル
燃料タンク容量	330リットル
清水タンク容量	56リットル
定員	12名
航行区域	平水、限定沿海、沿岸

詳細はこちら



LY680



LY680はラグジュアリーライフスタイルブランドとしてのLEXUSが、その思想を海の領域へと拡張するフラッグシップモデル。「海の真ん中で、本物を知る人が素の自分に戻れる、隠れ家のような空間」をコンセプトに、LEXUSのデザインフィロソフィーであるL-finesseを体現したエクステリアと、快適性を追求した居住空間が高い次元で融合している。パフォーマンス面ではLEXUSが追求する「すっきりと奥深い」航走性能を目指し、安定した操縦性と上質な乗り心地、そして高い静粛性を実現。フライブリッジにはゆったりと寛げる広いラウンジソファを採用。バーベキューグリルもオプション設定され、海と風を感じながら、極上の時間を楽しめる。

全長	20.66m
全幅	5.76m
エンジン	Twin Volvo Penta IPS 1350/1050
最高出力	1,000PS × 2基 / 800PS × 2基
燃料タンク容量	4,012リットル
使用燃料	軽油
清水タンク容量	852リットル
定員	12+3名

詳細はこちら



※掲載内容は2026年3月現在のものです。 ※写真には撮影用小物、オプションパーツ等を含む事があります。

TOYOTA MARINE Ocean Style

■発行人 トヨタ自動車株式会社 ■編集長 野崎 武 (マリン事業部)

■フォトグラファー 福地 和男 / 石川 三紘 / 石川 雄基 ■ライター 中田 雅博 / 石川 雄基 / 神谷 仁

■デザイン・レイアウト 野口 浩司 / 加藤 憲明 ■企画・製作 M's PLANNING inc.



TOYOTA MARINE × muta MARINE

コラボポロシャツプレゼント



アンケートにお答え頂いた方の中から
抽選で3名様に
TOYOTA MARINE × muta MARINE
コラボポロシャツをプレゼントいたします。

応募締切：2026年5月31日(日)まで

※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。

アンケートに
回答する

所要時間：約4分



※ご回答頂きましたアンケート内容に関しましては、今後の編集・企画立案の際に参考にさせていただきます。また、ご入力頂きました個人情報については読者プレゼント発送のほか、当社が個人の内容特定できないような統計的な資料を作成する際に利用させて頂く場合もございます。個人情報に関しましては当社にて厳重に管理し、この目的以外で許可なく第三者への提供はいたしません。

海とあなたをつなぐ架け橋になりたい。

MOBILITY FOR ALL



PRODUCED BY OSAKA TOYOPET GROUP

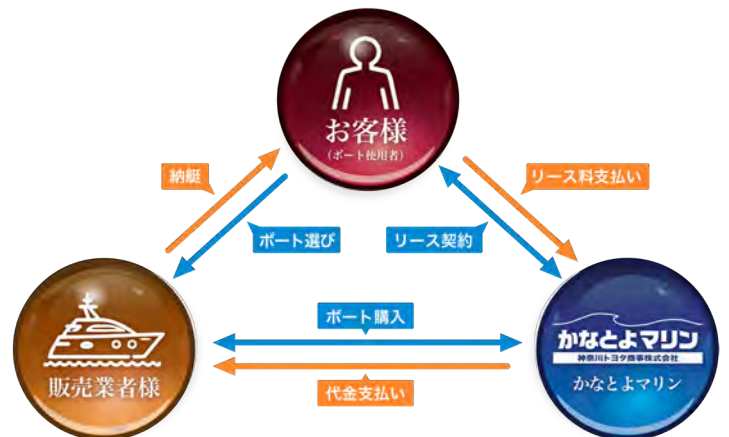
OTG MARINE OFFICE 〒659-0035 兵庫県芦屋市海洋町11-3 TEL:0797-35-7373

ボートリースという選択肢



かなとよボートリースとは

ボート購入をご検討のお客様に代わり、当社が販売店様からボートを購入いたします。お客様は、当社にリース料をお支払いいただくことでボートをご利用いただけます。リース満了時には、予め設定した残価でのお買取り、または再リースをお選びいただけます。



True Moments

海を駆ける愉しさに、更なる洗練と上質を。
表層的な美しさだけにとらわれることなく、
目指したのは深く本質的な進化。

船上で過ごすすべての瞬間を、
心の内から湧き上がる深い満足感で彩るために。
自分らしい時間を愉しむ、本質的な喜びをあなたに。

Premium Cruiser PONAM-35sv



※画像はCG画像です。

詳しくは、お近くのトヨタボート販売店、またはフリーダイヤルへお問い合わせください。
トヨタ自動車株式会社 マリン営業所 ☎ 0120-532-451 www.toyota.co.jp/marine/

TOYOTA
MARINE



トヨタマリン刊行のマリンライフが楽しくなる情報をまとめた季刊誌「Ocean Style」





Beyond Together

永遠を湛える海に浮かぶ、疾走する、仲間と過ごすひととき。
 そんなかけがえない時間を、より豊かにするマルチパーパスクルーザー。
 初心者でも扱いやすい安定性と、上級者も満足させる高い操船性能。
 そして、環境への配慮と快適性を両立した上質なインテリア。
 仲間と、海と、ともに未来へ進むことから生まれる喜びが、
 この一艇には確かに息づいている。

Sport Utility Cruiser
New PONAM-31



※画像はCG画像です。

詳しくは、お近くのトヨタボート販売店、またはフリーダイヤルへお問い合わせください。
 トヨタ自動車株式会社 マリン営業所 ☎ 0120-532-451 www.toyota.co.jp/marine/

TOYOTA
MARINE



トヨタマリン刊行のマリンライフが楽しくなる情報をまとめた季刊誌「Ocean Style」



NTP マリーナりんくう



70ftクラスを4隻収納可能!



中部圏トップクラスのサービスセンターは、
大型艇の修理、メンテナンスからカスタムまで対応。
お気軽にご相談ください!!



〒479-0882 愛知県常滑市りんくう町3-6-1
TEL.0569-35-7200

www.ntp.co.jp/marina/rinku



ボートの事なら販売・保管・メンテナンスまで全てお任せください!!



空から海へアクセスできる、
新しいマリナライフの提案

BBQコーナーを設置



NTP マリーナ高浜



名古屋中心部から車で45分。
家族や気の合う仲間たちと
のんびり快適なマリナライフを。
レンタルボートクラブ、ボート免許スクールも実施!!

〒444-1325 愛知県高浜市青木町1-1
TEL.0566-54-5300

www.ntp.co.jp/marina/takahama



「家族と楽しむ海」がコンセプトの
アットホームなマリーナ

新規艇置 契約募集中!

年間保管料の一例	
例 りんくう 45フィートの場合	例 たかはま 35フィートの場合
年間保管料(海上:B棧橋) (税込み) ※特約付 1,776,500円/年	年間保管料(海上:B棧橋) (税込み) 726,000円/年
年間保管料(海上:B棧橋) ※特約なし 2,090,000円/年	年間保管料(陸上) 1フィート 11,000円/年

※船台料金別途。※陸上保管は実測長にて算出。※上記料金はあくまでも参考です。艦装によって変更あり。

◎上記以外に各入会諸経費が必要となりますので、
詳しくはスタッフまでお気軽にお問い合わせ下さい。

特選商品艇多数あり! 詳細等NTPマリンプラザ
ショールームページをご覧ください!!

NTP MARINA RINKU **NTP マリナクラブ**

会員募集中!

オーナー感覚でマリナライフを楽しむ! レンタルボートクラブの
ワンランク上のステータスを追求した会員制クラブ
NTP マリナクラブ事務局
☎ 0569-35-7820

NTP **ボートライセンススクール**

受講生募集中! 抜群の合格率!

1級、2級、特殊小型(水上オートバイ専用)の3コースをご用意。
一例(2級) **¥98,000(税込)**
NTP ボートライセンススクール事務局
☎ 0566-54-5301

NTP MARINA RINKU **NTP レンタルボートクラブ**

会員募集中!

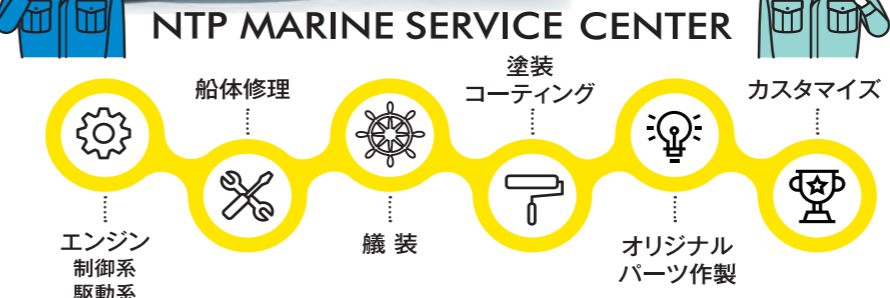
いつでも、乗りたくなったらレンタルボート! ボート免許取得者で
18才以上の方ならどなたでも入会可能な会員制クラブ
NTP レンタルボートクラブ事務局
☎ 0566-54-5300

MARINE SERVICE



あなたのニーズをかなえる、
テクニカルメニュー

マリンサービス
NTPマリンサービスセンター
は、様々な艦装対応、船体
修理を始め、オリジナルパー
ツからカスタマイズまで、高
い技術力と内製体制でオー
ナー様のご要望にお応えし
ます。



名古屋方面からの
アクセス良好!





A style without compromise for a more beautiful and creative life

Official Store location

[muta ONLINE STORE] www.muta-japan.com [muta TOKYO JAPAN] 03-6721-0348 [muta MARINE TOKYO] 03-5770-4498 [muta MARINE GOLF PALAZZO] 03-5220-4498 [muta MARINE GOLF NHONBASHI TAKASHIMAYA] 03-6281-8380 [muta MARINE GOLF SHINJYUKU TAKASHIMAYA] 03-5990-2888 [muta MARINE ZUSHI] 0467-39-5589 [muta MARINE YOKOHAMA] 045-319-4682 [muta MARINE SENDAI] 022-281-9658 [muta SALONE] 052-265-8852 [muta MARINE GOLF the MODA] 052-777-7373 [muta MARINE RINKU] 0569-38-1266 [muta MARINE GOLF NAGOYA MATSUZAKAYA] 052-264-2798 [muta MARINE GOLF JR NAGOYA TAKASHIMAYA] 052-566-3874 [muta GLOBALE KANAZAWA] 076-264-8881 [muta MARINE BIWAKO] 0775-36-6445 [muta MARINE KYOTO] 075-223-5530 [muta MARINE GOLF KYOTO TAKASHIMAYA] 075-252-7964 [muta MARINE OSAKA] 06-6484-6134 [muta MARINE GOLF OSAKA] 06-6224-0855 [muta MARINE KIDS OSAKA] 06-4256-2955 [muta MARINE GOLF OSAKA DAMARU SHINSABASHI] 06-6252-5001 [muta MARINE GOLF OSAKA TAKASHIMAYA] 06-6632-9874 [muta GLOBALE KOBE] 078-232-3988 [muta MARINE HIROSHIMA] 082-247-6660 [muta MARINE KIDS HIROSHIMA] 082-567-4383 [muta MARINE OKAYAMA] 086-230-4580 [muta MARINE MATSUYAMA] 089-933-8150 [muta MARINE FUKUOKA] 092-723-0018 [muta MARINE GOLF IWATAYA HONTEN] 092-713-0018 [muta MARINE OKINAWA] 098-988-7088 [muta MARINE OKINAWA COLLINA DEL MARE] 098-989-8626



www.muta-japan.com
muta JAPAN Co., Ltd.
Copyright © 2015-2026
muta MARINE. All Rights Reserved.

LEXUS



バッテリーEV

RZ



Photo : RZ550e "F SPORT". ボディカラーはブラック&ニュートリノグレー(M48)